

トマ喰い虫

改装 **1** 号〈通刊6号〉

万国の被爆者団結せよ/栗原貞子

私も反核/山本コウタロー

インタビュー/飛鳥田一雄

豊前から/松下竜一

〈トマ喰い虫たち〉呉・ヨコスカ・京都・新潟・三沢



TOMAHAWK DATA

米議会、85会計年度 トマホーク予算にゴーサイン

5月31日に米下院は、1985会計年度（1984年10月より1年）におけるトマホーク関連予算の凍結を一度だけ決めた。いくつかの条件付きの決議であり、とりわけ「ソ連が同種の兵器を配備しない限り」という条件は非常に動き易いものでその有効性が疑問視されていた。

結果的には、上院との調整段階で、この決議は修正され、1985会計年度のトマホーク配備予算は承認されることとなった。

米下院軍備委員会「調達・核兵器小委員会」におけるトマホークシステムに関する証言（抜粋）

米海軍合同巡航ミサイル計画局長
S.J.ホステットラー海軍少将 '84.3.14

背景

約12ヶ月前、御記憶の通り、私はこの委員会でトマホーク計画に存在している幾つかの問題点を報告いたしました。是非注意していただきたいのは、これらの問題点やその解決のための計画変更によって、地上発射型巡航ミサイル（GLCM）計画や海上発射型核巡航ミサイル（SLCM/N）計画は、いささかも影響されないだろうと予測されたことです。この2つの型は両方とも試験段階で成功をおさめており、初期作戦能力（IOC）計画段階に進んでいました。

存在した問題点というのは、開発段階から量産段階への移行にともなう問題と、より高精度を要求される通常型（非核）ミサイルの性能にかかわる問題が主たるものであります。（略）

この兵器システムのさまざまな型式の兵器の現状についてお話しする

9月25日、上下両院協議会が1985会計年度の国防予算支出権限法案をめぐり、予算額とこれに関連する個々の兵器システムについての両院の決定の相違を調整した結果、核トマホークの配備計画を認めることに合意した結果である。

下院は9月26日の本会議で、上下両院協議会の合意通りに1985会計年度国防予算支出権限法案を決定した。

前に、この海軍の巡航ミサイルの作戦上の要求について、全般的なことをお話したいと思えます。海軍の目的は戦争を抑止すること、そしてもし抑止が失敗したとき敵の攻撃に効果的に反撃することです。私たちは3つの大洋に関与するのに1.5大洋の海軍しか持っていないのでありますから、現存の艦船と、選択の巾を広げるために建造中の艦船から最大の能力を得る方法を見出さねばなりません。海洋発射型巡航ミサイル・トマホークは、この目的のための重大な、妥当なコストで効果的な役割を果たすものであります。

トマホークは、単なる1つの兵器ではなく、いくつかの型のミサイルと、発射台と、水上艦と潜水艦の複合体よりなる一群の兵器システムであります。

艦隊に配備される艦船発射ミサイルには3つの型があります。対艦攻撃用ミサイル・トマホーク（TAS

M）、対地攻撃用通常型（非核）ミサイル（TLAM/C）、対地攻撃用核ミサイル（TLAM/N）の3つであります。TASMは現在、潜水艦に全面的に作戦配備されており、近い将来に水上艦にも配備されるでしょう。TLAM/Nは1984年6月に艦隊に導入される計画です。TLAM/Cは、まだ開発中であります。

これらの3つの型はすべて、海軍のさまざまな艦船に、現在も将来も、配備されるであります。つまり、攻撃型潜水艦、巡洋艦、駆逐艦、戦艦などです。ミサイルはさまざまな発射システムから発射されます。現在ニュージャージーがもっているような装甲箱型発射台、現在688級（ロサンゼルス級）SSNにあるような攻撃型潜水艦魚雷発射管、そしてスプランス及びアーレイ・バーク駆逐艦に計画中の垂直発射台です。垂直発射台は近い将来688級潜水艦にも装備する予定です。（略）

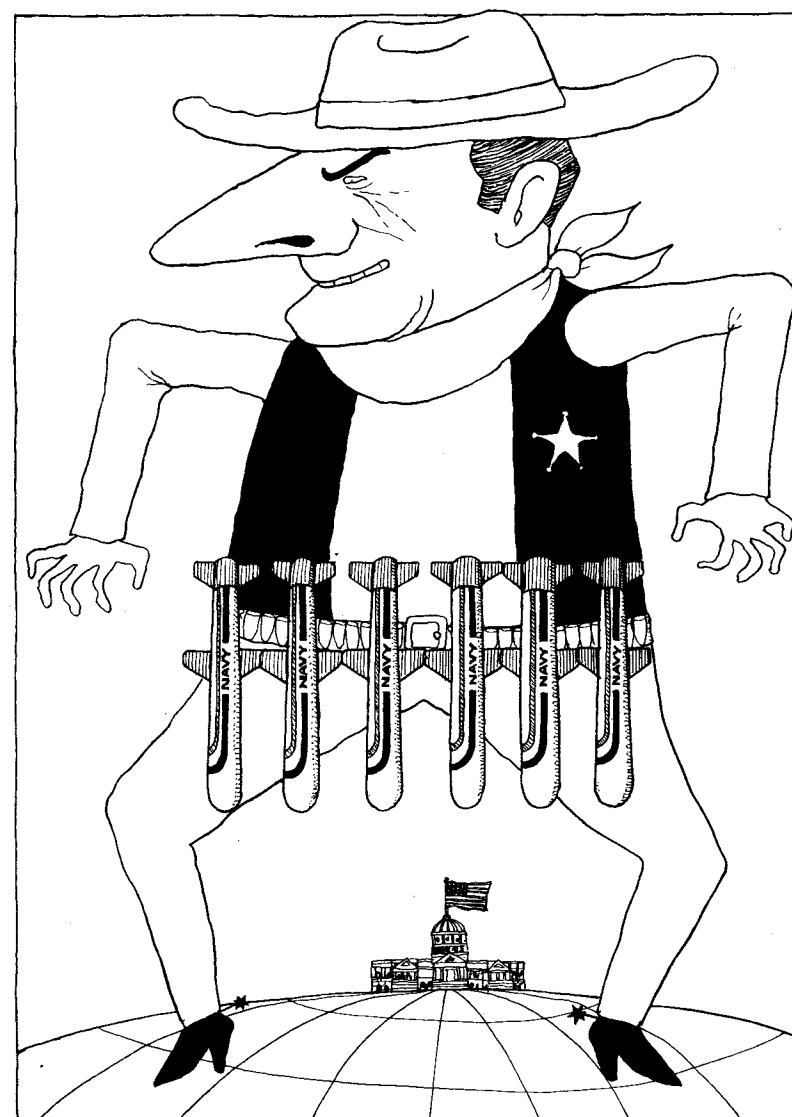
潜水艦発射トマホーク

潜水艦発射トマホーク計画は、本質的に予定通りであり、その目標を達成しつつあります。

対艦用TASMは試験を完了し、1983年11月をもって大西洋及び太平洋艦隊の潜水艦に配備されました。対地用核トマホークTLAM/Nは、飛行試験と潜水艦適応能力試験を成功裡に完了し、1984年6月艦隊配備の予定通りに進行しています。この6月配備を支えるために、潜水艦発射TLAM/Nは、独立した機関による兵站上及び安全上の点検を完了しております。（略）

水上艦発射トマホーク

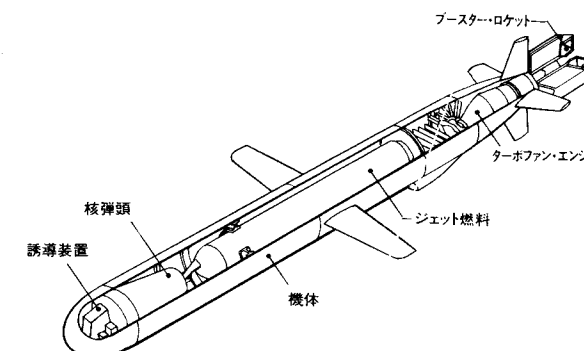
水上艦発射トマホーク計画もまた予定通り進行しています。みなさんのほとんどが、1983年3月に戦艦ニュージャージーに装備された対艦トマホーク及び対地通常型トマホーク



さあいつでもぬいてやるぞ!! (イラスト・橋本勝)

トマホークとは

トマホークは、いまアメリカが日本を含むアジア・太平洋地域に配備しようとしている巡航ミサイルです。核弾頭をもったトマホークは広島型原爆の15倍の威力をもち2500キロメートルも飛びます。目標付近の地図を記憶したコンピューターを搭載し、極めて高い命中精度を有します。超低空で飛行するため、敵側のレーダーを逃れ、限定核戦争の第一撃をねらった兵器とされています。



目次

1	トマホーク・データ
3	各地から
6	インタビュー 飛鳥田一雄
8	発言 栗原貞子 高橋正博 伊藤裕希
12	うた 反トマ・コピー・塾
14	もの申す 前田俊彦
15	虫の眼と鳥の眼の対談 糸土広・菅孝行
18	エッセイ 山本コウタロウ
20	すいひつ 松下竜一
22	今月のアンボ
23	海外から

表紙/デザイン・平野甲賀 イラスト・柳生玄一郎

TOMAHAWK DATA

で私たちが初期艦隊能力を達成した
 事実に御気付きのことと確信します。
 この配備は、トマホークを装備し試
 験した直後に、ニュージャージーが
 太平洋及び地中海の作戦に派遣され
 たという点において、とりわけ重要
 でありました。ニュージャージーに
 よる長期配備の結果、私たちはトマ
 ホーク・ミサイルと装甲箱型発射台
 の実戦配備上のデータを、ユニーク
 な作戦環境の中で得ることができた

のです。私は、この初期艦隊能力
 (IFC)が実戦評価(OPEVAL)
 (L)以前に達成されたことを強調し
 たいと思います。他の水上艦船への
 対艦トマホークの導入は、4月にOP
 EVALを完了して後、5月に開始
 する計画です。水上艦船からの対地
 攻撃用核トマホークも今月(3月)
 末にOPEVALを完了する予定で
 すが、艦隊への配備は今夏以後の予
 定です。(略)

フ出港。

- 9月19日(水)14時40分、攻撃型原潜「インディアナポリス」(6,000t、ロサンゼルス級・予)入港。6月27日配備発表後はじめてのロス級。6月27日発表時の装備艦であるか否かは不明。過去の新聞報道などを総合すると枠外と推定される?
- 9月24日(月)10時、インディアナポリス出港。
- 9月30日(日)14時50分、インディアナポリス入港。入港目的は「乗員の休養、物資の補給、維持」。マスコミ関係者の話によれば、故障の気配はなく、家族の出迎えもあったことから、予定通りの行動ではないかと思われる。
- 10月14日(日)インディアナポリス出港。
 (トマホーク予定艦であることの出所は「ジェーン海軍年鑑 83-84」「米海軍力年鑑」)

見のがせない文献

- トマホークおよび関連する日本の
 軍事的情况について、標準的なブ
 クレットが二冊出版された。
- 岩波ブックレット No.34 「トマホークとは?」(『世界』編集部編、1984年6月20日刊、200円)
 - 朝日ブックレット 31 「シーレーン防衛」(朝日新聞取材班編、1984年7月15日刊、300円)
- * *
- 次の2つの論文も見逃さない。
- トマホークはどう使われる?(ウィリアム・M・アーキン著、『世界』1984年11月号)
 - トマホークはこうして発射される(増田裕著、『軍事民論』特集38号、1984年10月1日)

「6月配備」以降、ヨコスカにおけるトマホーク搭載予定艦入出港状況

(7・1~11・10、ヨコスカ・鈴木良まとめ)

6月27日、米国防総省は、4隻の攻撃型原子力潜水艦に核トマホークを装備したことを公式に発表した。ハワイの専門家は8月段階で、この4隻は「装備されたが任務についていない」との判断を示した。

7月以降に横須賀に入港したトマホーク搭載予定艦は以下の通りである。6月配備反対の闘争が高揚したあと7月は入港ゼロ、8月になって搭載予定艦だけでも優先順位の低いスタージョン級原潜やスプランス級駆逐艦が入り始め、9月には優先順位の高いロサンゼルス級原潜が入港した。

- 以下で(予)はトマホーク予定艦。
- 8月5日(日)15時すぎ、攻撃型原潜「ドラム」(3,640t、スタージョン級・予)入港。本年以来原潜の入港11回目。
 - 8月8日(水)15時、ドラム出港。
 - 8月9日(木)9時43分、ドラム、「機関関係の軽微な故障」のため再入港。12回目。
 - 8月10日(金)15時、ドラム再出港。
 - 8月10日、基地発行の「シーホーク」紙、駆逐艦「オルデンドーフ」

(基準5,770t、満載7,810t、スプランス級・予)が8月15日に母港とするため入港と報道。同日夜のNHKも放送。

- 8月12日(日)午後、外務省が市に対し攻撃型原潜「アスプロ」(スタージョン級・予)が8月13日15時入港と連絡。
- 8月13日(月)早朝、米軍、外務省へアスプロ入港中止を通告。
- 8月15日(水)13時、オルデンドーフ入港。基地内で基地司令部主催の歓迎式典。横山市長、岡本商工会議所会頭は欠席。日本人招待者30名中出席は10名位。
- 8月24日(金)9時、アスプロ出港。
- 9月3日(月)15時、攻撃型原潜「カバラ」(3,460t、スタージョン級・予)入港。
- 9月6日(木)14時40分、攻撃型原潜「トートグ」(3,640t、スタージョン級・予)入港。
- 9月11日(火)10時、カバラ出港。15時、ドラム入港。
- 9月13日(木)10時、ドラム出港。12時、トートグ出港。8時、ミッドウェーに随伴してオルデンドー

地域から

北海道 我々を忙しくさせ 「横路革新道政」って何

9月22日から26日まで、高レベル廃棄物投棄予定地「幌延」から原発現地「泊」まで、八百kmに及ぶキャラバン。27日は、泊原発本休着工阻止行動。一方、対機甲演習、航空自衛隊総合演習、日米共同演習と、海も陸も空も「核」の道へ真っしぐら。10月14日に札幌・大通公園で街頭行動。道新労組と連帯しての「ストップ・ザ・自衛隊広告」、11月上旬に「海盜り」上映会。我々をこんなに忙しくさせる「横路革新道政」って一体何だべ? **反核反原発全道住民会議**



呉 長い目でじっくりと 軍都からの解放を

反核キャラバンへの取組みを契機に呉市民の会を結成してから早くも半年になる。過去100年海軍の町として世界に名を轟かせた呉で、ささやかでも自立した民衆による運動の芽が産まれ出したことは、私達の想像以上に大きな意義をもっていたのかもしれない。これまで動きの鈍かった地区労が、独自に呉市長への署名運動をしたり、組合員の核についての意識調査をしたのは、市民の会の動きに刺激されてのことだった。9月に旧軍港4市長(横須賀、佐世保、舞鶴、呉)が非核3原則厳守などのアピ

沢 金 第2回反原発北陸交流会 を計画

原発のない北陸の自立と再生をめざして、12月8、9日に能登原発現地の富来町で北信越を中心に住民・市民団体・労組約50団体が結集して第2回反原発北陸交流集

ールを採択したのも、呉での行動も含め反核キャラバンの連動した動きを意識してのことだったという話も伝わってきた。この意味で、運動の輪の広がりが今一步という限界は認めつつも、この半年間の無からの出発は軍都呉を問う大きな一歩として評価しておきたい。しかしここに満足しているわけにもいかない。6月からトマホークの配備は始まり、全斗煥来日に象徴されるように米日韓三角軍事同盟はより強化されている。その中で海峡封鎖を主任務とする呉の海上自衛隊は、韓国との共同作戦体制にはめ込まれるという新しい次元に入ったことも確かである。そして不況の町呉で自衛隊への依存が増しているとマスコミは書き

会が計画されている。第1回は市民団体の呼びかけで始まったこの交流集会も、今回は、住民団体が中心となり、原発阻止のための戦術・力の結集を真剣に探ろうとしている。

反原発石川県民の会・
 グリーンピープル

葉 千 多様な表現で、新たな人 と出合いたい

トマホーク配備という既成事実に対して原潜入港の度にちびの地でもピラマキで道ゆく人に反トマホークを訴えているが、単にスケジュールにこなすのではなく、

トマホークの配備を許すな!
 呉市民の会

東京
山川曉夫情報料理講座が
はじまります

何が配備を可能にしているのかを多様な視点から問い、そこから多様な表現を生み新たな人と出会い、語り共に行動していければと、11月に反トマ文化祭を企画しています。0472・57・8692

ちば行動

福生
2月チームスピリット85
6月「非核都市」

福生市民連合は、来年にむけて二つの準備を始めています。ひとつは、2月から開始を予定している米韓合同演習チームスピリット85に対する監視を含めての各種の行動。そして6月をめざしての「非核都市宣言・福生」の実現です。寒い季節のチームスピリット。暖かくなつてからの「非核都市」です。忙しい来年になりそうです。がんばりましょう。福生市民連合



反戦ワークキャンプ(広島)

神奈川
思い悩む前に出かけよう
ここが現場だ

横須賀をのぞけば今ひとつ、の神奈川の反トマホーク運動。理由をあれこれ思い悩むのもよし。しかし、ここは沖縄に次ぐ基地の県。核状況は確実に暮らして背中合わせのところまで迫って来ている。横浜、上瀬谷・深谷通信基地。ここは今、トマホーク実戦配備のホットな現場だ。出掛けよう。学習会、アンケート、パンフ作りを計画。中曾根を沈めよう！神奈川運動

東京
12月8日
国会デモに参加を！

戦争への道を許さない女たちの連絡会では、いま「軍事費の削減を要求する国会請願署名」にとりかかっています。そして、12月8日(土・PM1時)にはこの署名をもちよって清水谷公園で「増えつづける軍事費にストップを！12・8集会」を開催し、国会にデモを行います。ぜひ署名活動とデモに参加してください。

03・816・2057 戦争への道を許さない女たちの連絡会

愛知
諸運動の結合を求めて
持続的に

「許すなトマホーク愛知運動」を引き継いで「84年の反戦をとにかくやってみよう会」は①反トマホークスライド上映運動②10・21国際反戦行動③第Ⅱ期ザ・反戦塾開講④ニュースの発行(月2回刊)を柱に運動を進めている。とりわけ、労働戦線・日韓・反原発・反公害等の諸運動との結合を求めながら、軍需工場や小牧・依佐美基



ゲート前で(ヨコスカ)

京都
もどかしさと
いらだちの中で

8月、9月と米原潜の相次ぐ入港に、もどかしさといらだちを抱きつつ、抗議電報、ビラまき、デモを繰り返す。9月全斗煥来日に際して、5日間のハンストを始め、集会、デモに参加。11月には「平和講座」「基地ツアー」を企画。これらの活動を通して、老若が刺激しあい、学び合って「命を革めること」をめざす。

075・255・1261

トマホーク阻止京都連絡会

広島
来て下さいから
行かして下さいの運動へ

広島は状況一キャラバン隊につきき動かされ盛り上がる。持続せずさぼっているわけではなく、次々と新しい闘いの課題が。そんな風にはなりたくないと思っていたスゲジュール的な闘いに。何が残るのか、どう広がったのかを考える「来て下さい」の運動でなく「行かして下さい」の運動に。草の根は草の根だ。

ストップ・ザ・戦争への道！
ひろしま講座

福岡
1人の定例デモ
でも足りはしつかりと

博多の街では毎月23日、定例デモをつづけています。多い時で20名、10月はとうとう一ケタの7名。天神の車ラッシュの中を「声は大

横須賀
だから今からなんです
よとTさんはいった

トマホーク搭載予定艦が入港したその日、京急中央駅前の地下道入口あたりに、入港を聞きつけた者たちは集まる。七時すこし前まで抗議文を書きながら仲間を待って、ゲート前に移動。当直司令を呼び出す。ゲート前に来た理由を告げる。それぞれが持ってきた抗議文を差し出す。うけとれ。うけとれぬ。読み上げるぞ。それなら帰る。と通訳をはさんでの押し問答。最後はしぶしぶ抗議文をうけとり、私たちはシュプレヒコール。人垣で歩行者用ゲートを封鎖している横須賀署は、さっきから無届

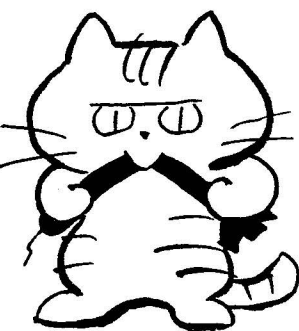
きく足どりはシツカリ」と歩いていきます。11月3日は自衛隊基地祭へデモ、23日シンポジウム、12月8日フクニチ新聞労組呼びかけの地方紙意見広告運動へのとり組みなど、粘り強くつづけていくつもりです。

軍拡、行革、改憲の中曾根を打ち倒そう！福岡共同行動

●予定艦が入港して数日後にはデモ。主催は「横須賀地区労」。私たちは一番最後につく。「地区労」のデモ隊は200から400。けして元気があるとは言えない。ま、元気がないのはこっちも同じだ。ともかく決めたことをしつこく続けてほしい。かつて原潜のヨコスカ初入港時から何年も入港抗議デモをやりに来たしとさは、今もまちはなくあるはずなのだから。

神奈川
生活クラブ生協は
生活者のつどいを

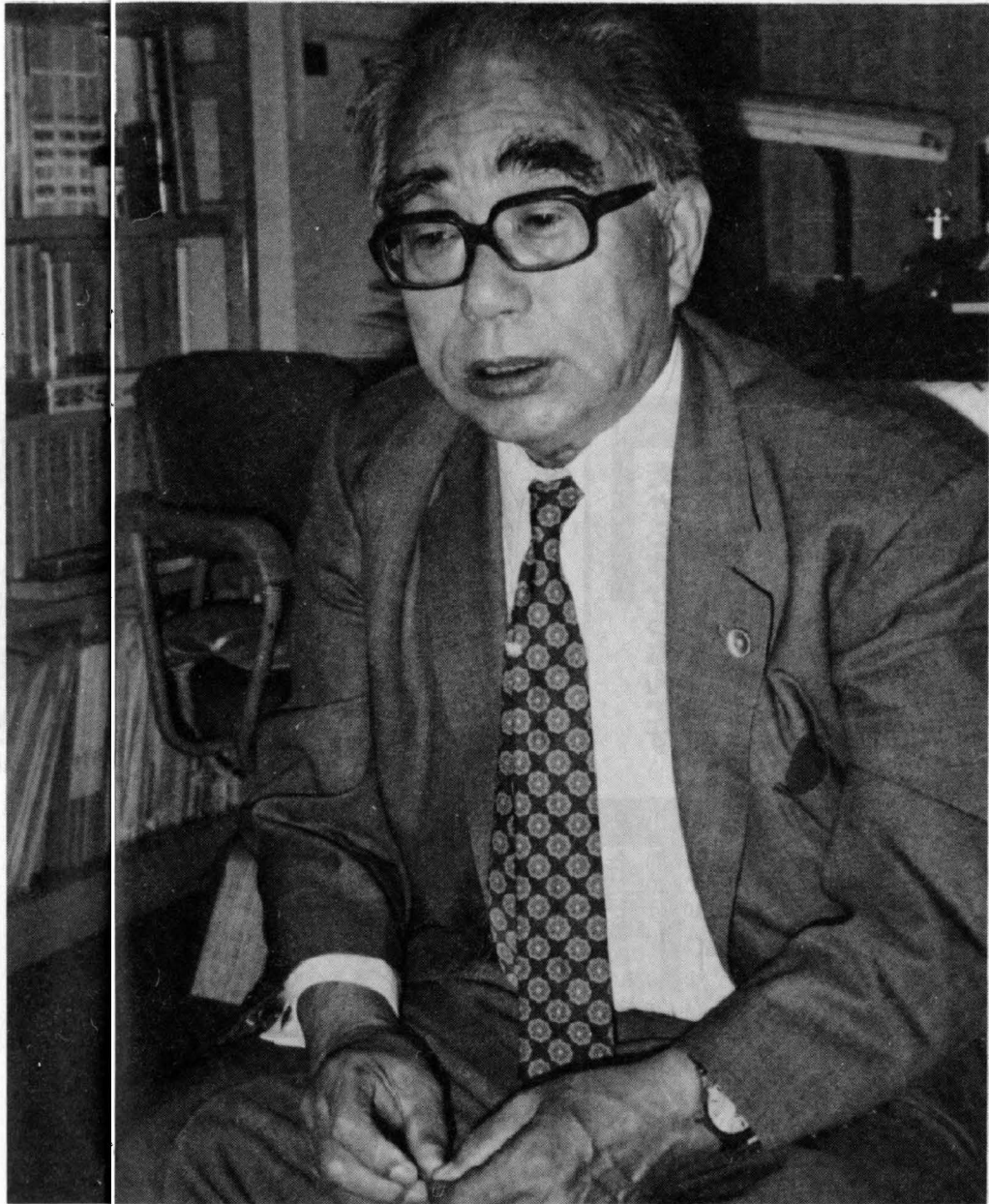
生活クラブ反核・平和委員会は12月8日(土)「いま一人ひとりが非核県宣言を！12・8生活者のつどい」を開く。つどいではシンポジウム(テーマ「非核県宣言を！実効あるものとするために」)、映画会、展示、ミニコンサート、ちようちんデモなどがおこなわれる。会場・横浜開港記念館(関内駅下車10分)、時・午前11時～午後5時、連絡先045・971・2641



●反トマ草の根署名は今6万2千。市長はこの署名に答えられがばりますと記者の問に答えて。「原潜の核チェック」、「非核三原則の厳正なる遵守」なるコトバを発明して、今のところ反トマ姿勢は堅持。だからあまり市長を追いこまずにと草の根の人たち。いや、それがすでにとり込まれていることなんじゃないかと、右も左もの草の根署名を心配する人も。私たちはその双方を行ったり来たりの日。

●状況はなんとなく灰色。加えて行動はどこかパターン化して動きは重い。だから、今からなんですよ本当の運動は、と長老格の70歳のTさん。反トマお線香論も出た放談会ではトマホークをとめるための徹底研究が酒の勢いで確認された。

「非核市民宣言運動・ヨコスカ」



飛鳥田一雄

横浜市長時代に、ベトナム行き戦闘車輛を村雨橋で止めた飛鳥田さん。トマホークだつてとまらないはずはないと、若手弁護士達と研究会を発足。（インタビュー・新倉裕史）

ヨーロッパの反核運動とくらべて、日本ではさほど燃え上らないのはなぜでしょうね。運動が悪いのか。ボクはそうじゃないと思っているんだ。たとえば東西両ドイツ。双方が核ミサイルを配備すれば見えるんだ。人々はこれはいかにあぶないこと。ちやうど、かつて横浜でM48（戦車）をとめてみんなに

見てもらった。あれと同じなんだな。実際に見て、フンガイして、そして危機感が生まれてくる。ところがトマホークを積む原潜は海の中。どうしても我々の感覚に直接訴えてこないところがある。ヨコスカに入ってくるときだってそうでしょう。浦賀水道を通るときだって、市民の生活からはかけ

はなれていて見えない。基地に入れば6号ドックの奥だから、これも見えない。で、いつのまにかトマホークが持ち込まれていたというわけでしょう。市民の目から見えない。このことが人々のパッションをおこさせない大きな要素となっているんじゃないか。そういうときにね、これまでど

見て、さわれて においがかげないと

もう一歩 どう出るか

様々な署名運動があつて、大きなひろがり生まれている。とてもいいことです。しかし、もう一歩前へどう出るかというところで弱い。運動を可視的にする、その節目を作る智慧がだから必要なんです。

おりの集会やって、デモやってというだけじゃおいつかないんじゃないですか。集会、デモがダメっていうんじゃないんだ。これ自体はおろそかにしてはならない。どんどんやるべきですよ。しかしそれだけじゃ、参加する人たちだけの運動で終わってしまう。道ゆく人たちは見物するだけで、自分がその中に入っていくべきものとしてのエモーションをもてない。

ルフェーブブルって人がパリコミューンはおまつりだと言っているんです。言葉は悪いけど、運動は一種のおまつりなんだな。市民ひとりひとりのパッションを生み出すものは何か。見えない相手に対し、どうすれば接点を作ることができるのか。その発見こそ我々の仕事じゃないかな。

もちろん、こうすればトマホークが止まるなんて万能な方法はありませんよ。しかし、ひとつずつ階段を上るように運動を高めていくためには、具体的に人々に見える行動を積み重ねることがなくてはダメでしょう。

中曽根首相が「非核三原則」は国是であると言っているでしょう。国是と軍事基地撤去はどんな関係があるのか。このへんを手がかりにして、核兵器を持ち込んではないという訴訟をおこせないかと考えて集まりを始めたんだけど、これも見える接点づくりのひとつですね。ならぬと言つても持ち込むかもしれない。しかし、ならぬという目に見える訴訟ひとつあるだけで、ずいぶん元氣は出るものなんだ。

それとね、核を持っていなくても、原子力潜水艦そのものが、あのせまい浦賀水道を通過することに、非常な危険を感じるんだな。ベルギーでのモンルイ号なんて人ごとじゃないでしょ。あんな事故が起きたら、東京湾は完全に汚染されてしまいますよ。核トマホーク積んでいないからいいというわけにはいかないんだ。そ

のことについても何かできないだろうか。

日本の司法はともきゅうくつなところだから、これならいけるという方法がすぐ作られるわけではない。でもコソコソ調べればなんとか出来るんじゃないかって、仲間の若い弁護士さんたちとも話しているんです。

勇気づける 手段として

訴訟はひとつの方法なんだ。万能じゃない。最終的に勝負するのは大衆の行動ですよ。でもそうした行動を勇気づける手段としては訴訟も力をもっていると思う。だいたいけんとうがついたら、ヨコスカ市民に原告になつてもらつて訴訟を起こしたいね。次はサセボ、というように各軍港で訴訟を起こし、それが日本中をおおうようになつたらおもしろいでしょう。

万国の被爆者団結せよ

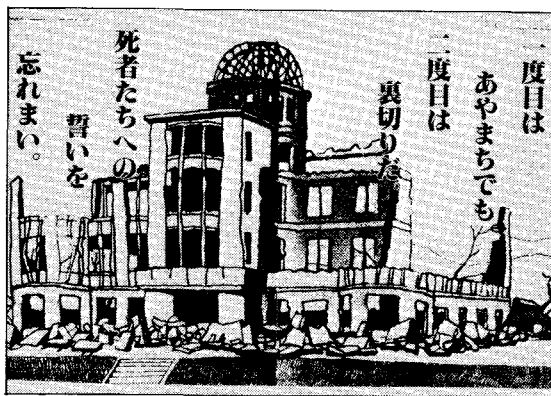
—タライのなかの赤ん坊を流すな

詩人 栗原 貞子

占領中の米軍の原爆管理は徹底していた。プレスコード（日本にあたる新聞紙法）によって原爆犯罪を隠べし、被爆者や原爆症を消してしまった。講和条約発効の年の八月に『アサヒグラフ』の原爆特集によって初めて原爆の人間悲惨が公開され全国に衝撃をあたえたが、占領中の七年間の徹底した原爆管理によって日本人の意識の内部では既に原爆犯罪の恐怖と投下国アメリカに対する意識は摩滅させられていた。

米占領軍は九月十九日、プレスコードを発し、東京・大阪・福岡・札幌の四地区に秘密機関民間検閲支隊CCDを置き、一切の言論・表現などを検閲した。その上CCD郵便班は各府県の通信網を監視下におき、郵便物の検閲まで行なった。

しかし、その半面占領軍は民主的な占領政策を行なって封建的専



版画・和田 浩（石川県）

制と独占資本を解体し、解放軍的印象を与えたので、日本人は秘密機関の存在を知るべくもなかった。こうして広島、長崎は全国に知られることなく孤立し、被爆者は声をあげることもできなかった。

しかし、占領軍のきびしい原爆管理にも屈しなかった人々があった。作家の大田洋子は出版を許可

されない「屍の街」の原稿について訊問された。その内容がソビエトに知られることをCCDが警戒したからであった。

東大の都築正男教授は原爆投下後の八月下旬広島市の被爆者を診察し、第三次放射能によるストロンチウムや放射性毒ガスなどが肺臓に入り、骨髓に沈着しているとの見解をまとめ、百部のパンフレットを専門医に配付して原爆治療の立場から問題の究明を求めた。CCDは都築教授を呼びつけ、放射性毒ガスの障害を否定するよう強要したが、彼は拒絶し、その後も初代の広島ABC所長の陸軍中佐テスマーの会見の申し入れをも拒否して一九四六年七月、東大を追放された。その後いったん追放をとかれたが、自説をまげず一九四七年八月再び追放された。（岩波『思想』一九五四・八 長田新）

以後、日本の医学者は日米講和条約締結まで原爆症についての研究論文さえ発表出来ず、被爆者が血を吐けば肺結核、下血すれば腸チブスと言った診断をするような状態が当初続いた。プレスコード

被爆者の「いのちの証し」

七〇年代に入ってから広島修学旅行に全国から小中高生が訪れるようになり、八三年には三五〇〇校、五十万人が来訪して、平和公園の碑めぐりをし、原爆資料館を見学し、被爆者の体験をきくようになった。そのことから被爆体験の語りが要求され、これまでのを言わなかった被爆者たちが、「わがいのちの証し」として人間的情熱

を傾けて語るようになった。

そうした語りべの一人の沼田鈴子さんは、二一歳で爆心一・五軒の広島通信局で被爆し、下敷になって足首を切りとられた。その後四回の手術をして右足を太股のところまで切断した。彼女は松葉杖をつきながら、連日のように修学旅行生に語り、一九八二年秋にはヨーロッパへ10フィートフィルムを持って反核語りへの旅にも出かけた。沼田さんは米国戦略爆撃調査団の撮影班が一九四五年九月に広島で撮影したフィルムを10フィート運動が買い取って編集し試写した時、「人間をかせせ」のフィルムの中の自分を認めて、初めて自分が被爆者であったことを自覚したという。それまで彼女は障害者運動にかかわって来たが被爆者であることをかくしていた。

被爆者であることが知られると生きて行く上でさまざまな抑圧と疎外があった。彼女はフィルムの中の自分を被爆者の証しとして、これまでの被爆者としての無責任を反省し、体験を語ることを通して核廃絶を訴えようと決意したのであった。被爆者たちは、アメリカの原爆管理の下で被爆者としての

自覚と責任を放棄させられて生きて来たのだった。

原爆を認める聖戦意識

一方、原爆投下国でも原爆が完成されるまでの五年間に、放射能を扱う研究所やX線治療所の従事者が放射線によって一七〇人が倒れたという。今年三月広島を訪れた全米被爆者協会のドロシー・レングッタさんは自らもマンハッタン計画の研究所で被爆して甲状腺癌の手術をした被爆者である。彼女はビキニやネバダの核実験の演習に参加した二十五万人の退役軍人と、その他の核兵器や原発など七十五万人の被爆者など計百万人の被爆者について詳細に述べ、アメリカの政府が被爆者の発病に対して責任をとらないことを批判し、広島・長崎の被爆に学ぶために来日したと言った。

日本でも最高の戦争責任者である天皇は「戦争中のことでやむを得ない」と原爆投下を容認し、原爆被爆者問題懇談会はそれにならったのか、「国家非常事態の下で行われた犠牲であるから国民ひとしく受認せよ」と聖戦意識をもって援護法制定要求に対して被爆者

をたしなめた。

「万国の被爆者団結せよ」である。秋葉プロジェクトの米人記者たちが広島市の被爆者取材して、アメリカに対する悪感情がないことに感動し被爆者を聖化している。このことは原爆投下の憎しみをこえて、同じ核時代に生きる絶滅の運命共同体地球号の同志としての連帯感であり、被爆体験の思想化であると言う人もある。私も否みはしない。しかし、忘れてならないことは忘れてならないのである。すべてを水に流してタライの中、赤ん坊まで洗い流してはならない。

今こそ運動のネットワークを
——ライフスタイルの変革を求めて

新潟市 高橋 正博

今こそ自立した人間たちのたたかいが、組織されなければならないのではないか！

状況がどんどん悪くなっているにもかかわらず、毎年、暑い夏が去ると反核・「原水禁」の運動は、組織内の取組みから消えさる。あるいは、スケジュールの設定された諸々の「政治課題」としてのたたかいは、その時点ではマジメに取り組まれるが、日程が終ればその結果の如何を問わず、たたか

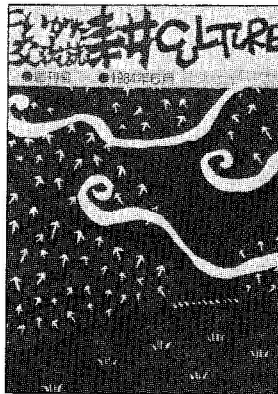
わたしの主張

いそのものは消え、精々年一回書かれる運動方針の一文として載る程度。またその渦中にある「組織」されている労働者も、上意下達の思考習慣にならされて？か、自らの生活観・世界観に根ざした主体的な運動への参加は希薄といつてよい。

活動家といわれる人々たちも、その例外ではありえないのだが、イデオロギーとして頭脳に注入された政治意識と、「労働組合的」ともいへば即物的生活観に足をとられ、日本人の歴史的・構造的加害者としての立場を見失い、感受性に柔軟さを欠きつつある。

若者への伝達を考えて

日市連（日本はこれだいいの市民連合）の吉川勇一氏は、『新地平』の十一月号で、今ある豊かな物質的生活を前提とした「利己



的合理性にもとづく現状維持・保守反戦平和」という日本国民の心情を分析しておられたが、こうした大衆と、前述した私たちが果して切り結ぶことができるだろうか？できない。そういった予感があるからこそ、どんな戦線を後退させているのではないだろうか？しかし、私はこんな状況下であればある程外に向って心を開き、さまざまな運動とそれを支える人々との出会い、自己を相対化し、知らぬまに身につけてしまった政治的・組織的枠組みと、思考の枠組みをとっぱらう努力が必要ではないかと思う。幸いにも新潟県内では、いわゆる組織というものにこだわらず運動を行なっている百数十人の人々が結集し、新潟交流誌『耕「カルチャー」』を創刊、歴史・地域・風土に根ざした運動の交流が始まっている。

同時に、私たち男は、男たちがどこかに置き忘れてしまった「身心ともにのびやかな健康的な地域社会と生活」を守るために、世界的に立ち上がりつつある女性（生命をばぐみ育てる人間）たちに

学ばねばならない。現代文明・現代世界が内包する悪魔的ともいえるべき危機状況を敏感に感じとっている女性たちのリアルな認識を共有しなければならぬと思う。そして、生活総体を見つめ直し、ライフスタイル自身も変える努力が必要といえる。私はそうした状況認識の獲得の一つの手段として、テレビ放送のビデオ化をはじめ、いる。テレビで放映される情報は、

下北半島魔考

現実的に海を耕しつづける魅力の共有を

死の灰から酒の肴を守る会 伊藤 裕希

青森の三沢で暮らしはじめて一年半。三沢といえば基地の街。三沢基地へのF-16戦闘機爆撃機配備の日米間合意が一昨年九月。来年度早々から四五年でF-16が約五〇機配備の予定だ。当初、賛否の論議がここ三沢でもあったことは確かだ。地区労が反対署名を七千集め、市議会に陳情もした。

（三沢市は人口四万。有権者数は二万余。約三人に一人の割合だ）しかしそれっきり。今では、「反対しても来るものは来る。やるだけ無駄だ」という市民の声に代表されるように、諦める事に慣らさ

れは現在耐えている借金暮らしに比べれば、まあ先の話だし、そのうち公害も防止できるようになるかもしれない。それでは『とにかくまず』この貧困を捨てることにしよう」という人々に、「きれいな海や空を！」「農業や漁業を守ろう」と何百遍叫ぼうが意味はない。一般的には農業や漁業の大事さを認めながらも、現実的には圧倒的に少ない後継者。この落差をボクらの側からも埋める実践が伴わない限り「下北半島魔」構造をつき崩すことは困難ではないのか。今、土地や海を手放すことを強制させられている人々に対し、「開発」の弊害を訴える以上に、そこで土地や海を耕し居残ることの「魅力」を理想論ではなく現実的にどこまで説得力をもった形で共有しうるかが課題だと思う。

このような中で「トマホーク」が話題や議題になる事は全くない。無いどころか「トマホークって何？」が実態。勿論（と大きな声で言えることではないが）かく言うボク自身も正直言って大同小異だ。高木仁三郎おじさんから「反トマで何か書いて」と言われ、一応承諾はしたものの改めてこの間のトマホーク関係の資料を机に並べ、一夜漬の勉強をしようという感じなのだ。

農漁民とボクらのたたかい

勿論そこでの農漁民が海や土地を手放す事で闘いが終るのではなく、相対的に独自のボクらの闘いもある事は事実であり、それはそれとして何をもち、いかに闘うかは重要なテーマだろう。しかし、土地や海を売らなければ「開発」は進まない事も現実であり、その事にボくらとしても決して無関心ではいられない。「無知」や「貧しさ」があるとすれば、それはボくら自身の歴史的教訓への無知であり、発想や実践の貧困さでしかないだろう。しかし、それにしても次から次と我が下北によこしてくれますねえ。いっそまとめてグーの音も出ない程轟沈させるチャンスなのだが……、できると思う？ できるよね？！

けんかしながら団結する

一年間の闘いで学んだもの

トマホーク阻止京都連絡会

トマホーク阻止京都連絡会は、昨年九月発足して一年を過ぎた。一年間の活動をおして、わたしたちはさまざまな人々との出会い、共同行動、そして論争を経験した。

それらの過程を通じてわたしたちが心がけたのは「けんかしながら団結する」であり、そして「言ったことはやる」という掟を自らに課したことである。この掟は、参



ボクが言う「下北半島魔」は、下北半島への原子力関連施設の集中立地と軍事諸施設の連なりが、将来この地域に悲惨な結末を招き

開発と貧困のはざま

ボクにとって、今のところ「反トマ」は、もっぱら「下北半島魔」という意識しかないようだ。別に開き直るつもりは全くないが、実際のところ「基地の街・三沢」にいながら基地問題に関しては自ら主體的に何かをやったという事はないのだから、書ける程の何ものも持ち合わせていない。

寄せることへの大いなる危惧と反発の表現だ。しかし、実際ここ青森ではそれらに対する大衆的な闘いは今のところ見られない。県労・社会党ブロックのパターン化した運動と、点から線になりかかった少数の住民運動グループの動きと、各立地点での農漁民の先駆的な闘いの例が個々に存在するだけだ。これらの連携は今ようやくはじまったばかりだ。

「なぜ青森では闘いになりえないのか？」これはボクらの常なる問題意識だ。他所と比べて「無知」なのか、「貧しい」のか、「闘いの伝統がない」からなのか……。

これらの理由はそれなりに当っているかもしれない。しかし、この間のボクらの論議で一つだけ明らかになりつつある点がある。六ヶ所開発にしても、原船「むつ」にしても、東通原発、大間原発、F一六、そして核燃料サイクル施設にしても、それらの人体や環境に及ぼす危険性は訴えても、「じゃ、それらに頼らずどう生きるのか」という観点での共通理解を深め、実践化する関係は殆んど持とうとなかった、という点だろう。「公害」はたしかに反対だ。しかしそ

わたしの主張

加する人たちにはかなり厳しいものであったようだ。口先だけで勇ましいことを言っても、ちょっとした困難に直面すると、その言葉とはうらはらな行動をとる人、運動全体の利益を考えず、利己主義・保守主義に走る党派は信用されないという風風が育まれつつあり、一年を経た今、若い人たちの中にならずかずつではあるが、確かな活動主体が生まれ、その人たちが活動の中心を担いはじめています。

わたしたちが主張してきた「トマホーク配備を阻止する」ということは、今日の日本の民衆運動にとって、基軸をなす闘いであると考えられる。以下その根拠と、わたしたちのスローガンを述べ

べる。

核の論理を拒否する

一九八四年六月、アメリカは巡航ミサイル・トマホークの極東配備をはじめた。トマホークは広島型原爆の一五倍の威力をもち、敵の軍事施設を確実に破壊する先制攻撃用の核兵器である。トマホークは、日本に寄港する米軍艦船に搭載され、日本はアジアにおける限定核戦争の出撃基地になりつつある。

わたしたちは、広島、長崎の被爆がいかに悲惨な事態をもたらしたかを知っている。今日の核兵器はそれらをはるかに上回る破壊力をもっており、わずかに一発の核攻

撃によっても、数百万の生命が瞬時に奪われることは火をみるよりも明らかである。

トマホークの配備は、そうした犯罪が、日本を基地とする米軍によって、ソ連、朝鮮をはじめアジアの民衆に加えられることを意味する。わたしたちは、日本が核攻撃の基地になることも、核攻撃の目標になることも許せない。

こうした極東での限定核戦争の危機は世界的規模での米ソ核軍拡競争の帰結であるとわたしたちは考える。

第二次世界大戦後、アメリカは「抑止と均衡の論理」によって対ソ核軍拡とソ連に対する軍事的包囲を急速に推進した。それに対抗して、ソ連も核軍拡と軍事的プロック化を進めてきた。その結果、

りません。だいいち、コピーって何だかよくわかりません。でも、シュプレヒコールやスローガンなんか、じつは「コピー」なのではないかと思うのです。イトイせんせいもかつてはタテ書きの名人であらせられたというし……。

それから、宿題やトイ制へ

反トマ・コピー・塾 たたかろ人々

私はじつは、コピーも塾も嫌いだ。だからこのタイトルは「反コピー」「反塾」とも読んでもほしいのです。だいたい塾なんて、ビンボー人のせがれは行かないのが親への礼儀というものだし

それでは、「反トマ・コピー・塾」の始まり、始まりー！

●ミサイルに渡してならぬ青い空（宮城県 渡辺一寸さん）

じつはこれ、六月二十五日に行なわれた全国川柳大会で文部大臣奨励賞（ノ）に輝いた川柳。テーマがずばりトマホーク。

うたうたうたう

わたしのねがい

詩 杉 五郎
曲 市野宗彦



●安保があるから核がくる

基地があるから核がくる

つぶせ安保 つぶせ横田

（福生市 遠藤洋一さん）

●ロンヤスにゆだねちゃならぬ

我らの未来

（東京都 荒川俊児さん）

以上の二題はやや仲間おちの感がありますが、使えそうです。

●反核はナウイ 軍拡はダサイ

（横須賀市 品川哲朗さん）

反核の草の根署名の品川さんはコピーづくりの名人です。最後にもうひとつ品川さんの作品。

●もしも……ですが、もし、横須賀がトマホークによって限定核戦争の標的になったら、それは、誰が犯した罪でしょうか……それは、私たちが犯した子供達への重大な犯罪です。

東京周辺のものが中心になってしまいいし訳ありません。全国各地でさまざまな「コピー」が生まれていることと思います。編集部へぜひ送って下さい。（相馬ええじゃないか正男）

コピー大募集

世界は二つの軍事ブロックに分断され、今や地球上には、五万個、広島型原爆に換算すると、実に百万個に相当する原水爆が配備されている。それらは、地球上のすべての人間と生命をくりかえし殺すだけの破壊力をもっているといわれる。

これらの核兵器は「抑止力」としてだけではなく、アメリカ政府がくりかえし表明しているように、ヨーロッパと極東での限定核戦争を戦って勝利するために配備され、用いられようとしている。ヨーロッパへの巡航核ミサイルとパーシングII、極東へのトマホーク配備はその実戦化を示している。

いまこそ、「核による抑止と均衡の論理」を拒否し、一方的な核の廃棄を実現することが緊急に求められている。

求められる民衆の自覚的行動

この世界的な危機から抜け出し、核と戦争のない新しい社会を創ることが出来るのは、民衆の自覚的な行動だけである。ヨーロッパでの「平和」運動、第三世界民衆の闘いはじめ、世界中で起こりつつある民衆の闘いが、核戦争の危

機を防ぎ、二つの軍事ブロックを解体し、人類に希望と未来を育む唯一の力である。

歴史上はじめて被爆した日本の民衆の声と行動は、わたしたちの予測をはるかにこえて世界の「反核・平和」に寄与してきたし、寄与しようという歴史的事実を認識し、いまこそ「死の悪循環」を断ち切るためのたたかいを創り出す歴史的使命が日本の民衆にはあると、わたしたちは考える。

わたしたちがこの一年間に学んだことをスローガン風に主張すると以下のようにまとめることができる。

核戦争による世界の絶滅を阻むために、その出発点として、一、極東での限定核戦争を招くトマホークの極東配備を阻止する。

一、日米安保からの離脱をめざし、米日韓の集団安保を許さない。

一、アメリカの核の傘の下での経済大国を拒否し、アジア民衆とともに、つつましく平和な日本社会に生きることを求める。

もの申す!

運動のあり方を根本的に 考えねばならない 前田俊彦

「瓢箪亭通信」

物理的にだけでなく生理的にもおそろべき破壊力をもつ核爆弾が、すでに数万発も地球上には貯蔵されており、その運搬技術は数千キロメートルを一気にとばせることができ、さらにそういう遠距離でも命中率は目標から数百メートルもはずれることがないという、まさに悪魔の兵器であるトマホークを積載した米国軍艦がわが国の港を基地にしている。米政府自身もそれをかくそうとはせず、ソ連はもとより諸外国では公然と認められているにもかかわらず、日本の自民党政府だけがその事実を認めようとしていない。危機を表現するのに噴火山上という言葉があるが、現在われわれ日本人が直面している危機は、とうていそう

いう言葉で表現しきれるものではない。

もちろん、そういう危機感は少数者の先駆的な意識ではなく、きわめて広汎な人びとのあいだで共有されており、そのことは反核声明で数千万の署名をあげ、反核集会で数十万の人びとが結集するという事実にしめされている。これはおおきな希望であり、これだけがわれわれを勇気づけるものであるけれども、それにもかかわらず、具体的に日本人民のほとんど九〇％が核兵器の廃絶を要望していても、トマホークは既成事実として配備されるのである。それは何故か。人びとの危機意識が不十分なのではなく、反核・反トマホークの運動そのもののありかたに欠陥があるといわねばならない。

ひとつには、党派の活動が運動の阻害になっていないかという点である。たとえば長野市で、住民たちが反トマホークの街頭宣伝をやっていたとき、ある党派活動家たちが「おまえらに反トマホークという資格がない」といって妨害した事実があって、その党派は本気で反トマホークをさげんでいるのかどうか、きわめて疑わしいとさえいえるのである。たとえ本気で反トマホーク運動を展開しているとしても、彼らの党派勢力だけが優勢になればトマホーク配置は阻止できるとかながえているのではないか。この点は長野市における某党派にかぎらず、共産党をはじめとする左翼党派のすべてについていえるのであって、彼らは反トマホークという人民感情を政治的に利用しているにすぎない。

しかし、だからといって反核・反トマホーク運動からすべての党派が排除されるべきではなく、人民が党派の道具にされることを拒否し、逆に人民が党派を反核・反トマホークの道具にしなければならぬだろう。そのときはじめて党派も、その名に値する党派として人民の信頼を獲得するにちがいない。いわゆる市民運動にも問題がないとはいえない。かつては反核声明に数千万の署名をあげたもの、ある意味では市民運動が基本にあったといえる。だが、それは期待どおりの成果をあげたとはいえないが、体制の強靱な反動性もさることながら、市民運動が市民運動の枠をこえることができなかった点もみのがせない。つまり、人びとが自分の立っている現場のことばさていて運動に参加したのとは異なる。労働者は職場を、学生は学校を、地域住民は地域を、主婦は家庭を現場とし、その現場をひきつけて運動に参加するものがすくなかった。われわれは団結するといひ連帯するといっても、それは街頭で手をつないだり署名簿に名をつらねるだけでなく、生活している現場と現場とをつなぐのであれば、団結も連帯もほんとうの力とはならないのである。

事態はきわめて憂慮すべき状況にあるのであって、われわれは運動のありかたについて根本的にかんがえなおさねばならぬ時がいまではないだろうか。

虫の目と鳥の目の対談

——名古屋で民衆ひろばという、市民運動の横断的な場が持たれていて、生活と政治をめぐるいろいろな議論がされていると聞きます。そのへんのところからどうぞ。

糸土 民衆ひろばは81年秋に反原発きのこの会の討論から始まりました。それなりに70年代市民運動の総括から出て来たのです。総括は五項目くらいあるのですが、その四番目に「大情況主義をやめて小情況主義へ！」という項目があります。小田実さんがベトナム反戦運動の中で「鳥瞰図から虫瞰図へ」といったことが多くの人たちに共感を得たと思うんですが、私たちもそのようなこだわりをもって運動をして来た。その結果、それまでの大情況主義では見えなかった視座をいろいろ獲得して来たと思います。たとえば第三世界への視座というのはそこから生まれて来た。反原発も同じで、多くの大情況主義の人たちは数年前まで原発推進であった。それが今のようになったのは小情況主義の貢献です。

しかし一方で、大情況の右傾化がどんどん進行していた。特に衆参ダブル選挙での自民党躍進があった。小情況から見えるようになったけれども、大情況に全然手がとどかない。何とかしなくちゃ、という風になった。

民衆ひろばのタイトルは「止めよう戦争への道、つくりよう民衆の連帯」ということで、いわば住民運動のデパートみたいなものがあった。スローガンには六本の柱があつて、反戦、反安保、反搾取、反収奪、反差別、こゝまでは旧来の大情況主義でやって来た人たちも含めてやろうというもの。それから反開発・反公害、暮らしの中からの創造をノと立てたのですね。

菅 81年にそういうものが出たのは、70年代の成果と行き詰まりの表現でしょうね。81年にはレーガンによる核戦略の転換があつて、それを受けてヨーロッパの運動がわつと変る、ということがあつた。核戦争の危機というものの現実性がすごく増して、そのことを抜きには何も考えられないという情況

につっこんじやった。それがたまなのか、まさにそういう大情況と呼応してなのかははっきりしないけれども、きつとながりがあるんだらうなと思って話をうかがってました。

糸土 にわとりと卵の関係ですね。

菅 内側からもそうなのではない、外側からもそう来てる、それが出会った……

糸土 おそらくその上に宇宙船地球号的必然性があつた。これはものすごく大きいと思います。

菅 そうですね。これは反核とか反安保とかに何も関係ない人々の危機意識までかきたてるような性格のものですね。僕なんか、第三世界の問題に気づいたのは、60年代の大情況主義の中で、反帝闘争の質的転換としてゲバラとかファノンを読んだ。非常に観念的、抽象的な「第二、第三のベトナムをノ」というスローガンとワンセットだったわけですね。70年代には、小情況主義を貫きながら政治問題に視野を広げてゆく人の中に

反対側から掘り進んだ トンネルは出合ったか……

糸土広 vs 菅孝行

第三世界への具体的関心が生まれ
てきたのは事実だとは思わん
で、スパッと小情況主義の中
からこそ第三世界の視野が出て来た
と言われると、びっくりします。

糸土 PARC(アジア太平洋
資料センター)は大情況主義の人
が創ったと思うんです。しかし、
PARCの提起は広がった。それ

言わない、という中に、 あいまいにしているなら ないものを、あいまい にしている要素がある



かんたかゆき・1939年東京生まれ。反天
皇制運動連絡会。クライシス編集委員。
第2期PARC運営委員。

は小情況主義から来た水脈に出会
ったからです。本当に水脈を創っ
て来た人たちが重要だと思ふから
私はあえてそう言い切りました。

菅 小情況と大情況という対比
がいいかどうかは別として、私た
ちが運動として外へ主張を掲げて
向かうとき、たえず一人一人の、
人と人とのつながりとか、運動の
組み方とか、
内側の問題を
大事にしよう、
それを絶対に
ぬかしちゃな
らない、とい
う限りではそ
の通りだと思
うんだけれど
も、むつかしいですね。

たとえば、反安保という主張を
大情況的に掲げても、それで反ト
マ運動が反安保になるわけじゃな
い、という意見がある。全くその
通りです。しかし、反トマという
のも反安保というのも草の根とい
うのも、たかが言葉であるという
点では同じはず。ところが反
安保という言葉だけが抽象的だと
非難の対象にされるのは、やっぱ
りおかしい。

反安保と言ったからといって反
安保の闘いになるわけじゃないけ
れども、「言わない」という中に、
実はあいまいにしているならな
いもの、あいまいにしている要素
があるのじゃないか。「核はいや
だ」「戦争はいやだ」という意識
にどうフィットするか、という次
元ではフィットするやり方を選べ
ばいい。しかし、それが、ブルズ
ルーと水増しになることにつな
がないだろうか。横須賀のように
運動の蓄積がしっかりしていると
ころは大丈夫だろうか。

そのことと糸土さんが言われて
いることは全然違うんだけれど
も、小情況主義、生活見直し派と
いう言葉だけが一人歩きしてい
くと、右寄り潮流の大合流みたい
ものの口実にされていくという懸
念が、どこかで捨てがたく僕の中
にある。

らく運動体としてもあると思わ
んです。

それから一人歩きという点に関
して言うと、首都圏の運動は気の
毒だなあと思う側面があるん
です。何事にもパスできないで、首
都圏の運動が実は日本の運動にな
ってしまふ。この状態は変えられ
なければならぬ。当然、名古屋
の運動にも跳ね返ること、僕た
ちも大情況も担える市民運動とい
う風に一歩出ないといけない。

民衆ひろばには六つのスローガ
ンの他に四つの原則というのがあ
ります。「人間の関係を大切にす
る」「自分のおが主體的であるこ
と」「自分の運動を絶対化しない」
「お互いに率直に批判しあう」で
す。人と人の顔が見える関係とし
て集団となり力になるという具合
にならないのかなあ、そこがな
いと統一と団結が生み出す官僚組
織は非常に効率のいいマシンなん
だけれども、それに対抗できる私
たちの「多様性が力になる」過程
というものを生み出しえない。そ
ういう思いがこもっているの
——多様性が力になるか、とい
う問いだけでいいのでしょうか。
力を創らなければならぬですね。

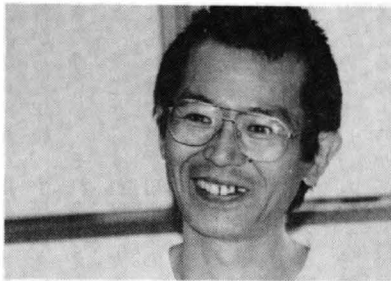
菅孝行

菅 力になるという保証がない
です。歴史的にはむしろ敗れ
去って来た原理ですね。しかし、
これを原理として汲み上げないと、
ゆきつく先というのは高度に発達
した資本主義の中でも、現存社会
主義の中でも、第三世界の権力の
中でも実験済みで、もうダメだと
はつきりしている生産力主義、科
学主義、進歩至上主義、差別主義
しかない。お互いが「違いは違
いとして相互に認め合いながら共
存してゆく」ということは、単に多
様性の承認にとどまらないで、こ
れを新しい社会の原理にして、す
べてを一新するでござんだとい
うことを、基本に据えないと運動は
必ずおかしくなる。

菅 力が一つ必要ですね。でないと、
これまでも、過渡期なのだから仕
方がないという形で、ソビエトの
ための電化が電化のためのソビエ
トになるといったひっくり返しが
起こってしまう。

菅 その新しい原理は、「すべ
からくこうすべし」というような
トータルな原理ではないのではな
いか。いくつかの「べからず集
」があってね、その上に二つの相
盾する権利が共存しあっていくの
じゃないか。

糸土広



いとつちひろむ・1944年宮城県生まれ。
名古屋で反原発きのこの会など多くの市
民、住民運動に参加。

菅 多様性を力にするには、ど
ういうつながり方をすればいいか、
連合の組織論をキッチンと考
えなかったのではないですか。

菅 そうですね。多様性とい
うことがそっぽをむきあうことにな
ったり、相殺しあうことになるの
なら、力になりつこないです。よ
ね。糸土 その上に自立の問題をつ
け足すと、70年代そしてそれ以前
の反戦運動は男の運動だったわけ
ですね。ところが男は飯をちゃん
と作れなかったわけで、その一点
をとってみても、政治活動での自
立とはさまざまな自立のほんの一
つにすぎない。自立についての考
え方がうーんと広がって来た。こ

れは多様性の前提となる自立の問
題についても本物が見え始めて来
たのだと思います。

菅 おそらく糸土さんと私はず
い分と違った発想をして来た人間
だろうと思うんです。それぞれの
自分史も全然違うし。ただ、ど
ちから考えても、これだけは踏ま
えないともうどうにもならないと
いう点をつめてゆくと、非常に重
なる部分が増えて来ているという
感じですね。まだ微妙にぶれてる
ところもある

政治活動での自立とは さまざまな自立の、ほ んのひとつ。

菅 政治活動ではもう少し
政治主義的なところもあって、運
動のモラルの原則と、個別の局面
での動き方は、必ずしもいつも完
全に一致していなければならぬ
とは考えてない。そうでないと、
極限的な、大きな力の一つに集中
したい状況に対応できないと思
う。だから、いささか便利に
考えているところもあるんですね。

菅 糸土 この使いわけには、原理

糸土 それは70年代の自己史に
かかわること、自己否定にめざ
めて自分の人生を刻んで来た。反
体制側でもイデオログという人
たちが出て来て、その人たちの間
で洗練された議論がされていくと
いうのは民衆にとって非常に疎外

菅 国家をなくそうというのは
結局そういうことです。それはみ
とめます。

僕らの未来は僕らが責任をもつてやっつけていかないとやばいよね

山本コウタロー

●インタビュー／相馬 正男 大久保育志



やまもと こうたろー 1948年東京生まれ。一橋大学在学中、「ペ平連」に参加。同時に参加していたグループ、ソルティ・シュガーで大ヒット「走れコウタロー」を生む。現在TV、ラジオで活躍のほか、著書『燃えよエコトピアン』（品文社）、『自然な関係』（教育資料出版会 同居人吉田真由美さんとの共著）が好評。

僕らが育った時代って、技術が急速に進歩して、宇宙中継みたいに居ながらにして世界の状況が手に取れるようになってたよね。けれど反面、市民生活を脅かすようなことも加速的に進んでいったような気がする。つまり、文明ってというのが人間にとって両刃の剣だっていうことが僕らにも感覚的にわかったんだよね。

もうひとつ、僕らの世代って戦後民主主義教育っていうのを受けて、「自由さ」とか「平等」とかを心に刻まれて成長してきたっていう感じがするのね。音楽でいっても、ちょうどポップ・デュランとかビートルズとか、自分たちで歌いたいことを歌うという人たちが出てきた。僕らもすごく刺激されて、ひとつの運動としてフォークソングが起った感じがした。その時発見したことは、「人間は基本的に自由である」ということ。その自由には責任がともなっているし、決して譲れないものだということ。

だからあの頃、ベトナムで同じアジア人が無残に殺されることや、大学が僕らを社会に送り出す商品みたいに扱ったこと

とに、ものすごい反発を感じたよね。

「社会に出て生活が考えられなくなる」

大学を卒業してからも「自由業」でやってきて、いま一見ストリートにもの言うように見られるよね。それは、「社会」に出た人たちが、仕事の中に人生の大半を没入させてしまっているからそう受けとるんだと思うんだ。一旦、企業なりに入ると、個人の生活というのは考えられないように、考えられないように仕組まれているところがあるからね。会社についてひとりで真剣に、「俺はこれからどう生きようか」（笑い）なんてなかなか考えられないよね。

僕が自由業を選んで良かったと思うのは、ライフスタイルっていうか、空気とか水とか食物の汚染の問題を出発点にして、これから五年後、十年後いかに楽しく生きてゆか、それを考えられるということ。そこからすれば、たとえば核の問題なんかは、見ず知らずの人の手によって、まったく自分の意思とは関係なくある日抹殺されてしまうということがありうるわけで、しかも未来永劫、地球生命的なことにかかわってくる問題で、これはどうみてもいけない。そのへんのことを考えるゆとりがあったっていうことなんじゃないかな。

「これおかしいって主婦のほうを感じてる」

最近「クロワッサン」とか「Lee」とかも自然食の店とか水の問題を取りあげるのね。奥さんたちはそういう問題を自分たちの問題として受け入れることができるけれど、生活を失って「社会」に出してしまった男たちには自分の問題として感じるできない。奥さんたちは中性洗剤や食品添加物にかこまれ、それらが身体の中を通り抜けるということについて、僕らが六〇年代に感じたような、ある意味で生理的、感覚的な嫌悪感っていうのを直接的に感じてるんじゃないかな。女性はまず身近なことから始まってその先にあるいろんなこと、それは日本の軍拡の問題にしても核の問題にしても、身近に感じられると思う。

このあいだ、池子弾薬庫跡地問題のシンポジウムがあって出ただけで、地道にやっけるのはやはり普通のおばちゃんたちだよ。そういう人たちの話を聞いていると、ある意味ではすごく保守的なんだけど、その立脚点っていうのは生活の裏付けがあるだけすごく強いような気がする。三里塚の農民があれだけ強いのも同じような強さが、いまのおかあさんたちの運動にはあって、これはやっぱりしたたかなものだっていう気がしましたね。

自分の人生しか生きられないんだから

六〇年代後半に、学生運動にかかわったのひとつの反省としては、僕なんか歌やっていたからあんまり言えないんだけど、こうでなきゃいけないっていう類型にはめ込んだり、「踏み絵」をしたりしてやって来ちゃったと思うんだよね。そうじゃなくて、これからはそれぞれの立脚点はとりあえず認めたいんで、より良い、より楽しい、気持ちいい暮らしというのを根元的なところで求めることから出発して、どこかで協調するっていうことだと思ってる。いやなことはいやだって意思表示してゆることが重要な気がするんだよね。会社人間ほどまわりを見ながら考えちゃう。「私は残業はいやだから帰ります」って帰って、時間内に仕事をパツチリやっていけば、出世はしないかもしれないけれど、それで生きてゆけると思うんだよね。なんかこう、他人との比較の中で人生を生きてくことを習い覚えてきてから、人から自分がどう見られるかっていうことだけを意識しちゃうんだよね。それでいつのまにか、壁の一個のレンガのごとく、組み込まれてしまっただけ。

要は、日常的に気づいているか気づいていないかだと思うのね。それはもう、本当にたくさん散りばめられているわけ

生活環境の悪化でも自衛隊の軍備増強の問題でも。けれど日本株式会社の一員ということになる、それを意図的に無視して通り抜けようってことがあるんじゃないかな。

もう繰り返さない！

いつか時が来たらノーと言おうと彼らは思っていると思う。でも時が来たときにはそれは言えないと思うね。そのつどそのつど感じていて、そのつどそのつどどうにかしなくちゃいけないって意識しているような状況を形づくっていかない限り、ある時点で、たとえば第二次世界大戦前に、おとうさんたちはいやだったけどしょうがなかったんだっていうのと同じような状況を、今度は僕らがおとうさん、おじいさんになって、また繰り返すんじゃないかと思う。それはもう、今度それを繰り返したらもうないからね。ないうって思うからそれは繰り返してはいけないんだよね。

この時代、これだけ多様化していて、いろんな情報があるよね。それを自分の中で取捨選択して、世の中が大きくどう動いているのか、自分の生活にはどうかかわってくるのか考えないと、とてもこわいよね。僕らの未来に、「太鼓判」を押せる人なんてどこにもいないんだからね。（84年10月31日 東京・飯倉にて）

一万円札ファイバーの町での トマホークアンケート

松下竜一

「草の根通信」

「トマホーク全国アンケート調査」に取り組もうと思う——ということを提案したのは、十月二十四日の夜わが家での「赤とんぼ」中津グループの集まりにおいてである。集まりといってもわずかに四人、三十代の主婦が二人と、共に四十七歳という中年男が二人にすぎない。このグループの月例会は、いつもこんな程度なのだ。

「アンケートの内容は昨年一度やったものと同じなんだが……あのときのやり方は多少インチキくさったんで、今度は本当にゆきあたりばったりの相手からのアンケートをやってみようと思うんじゃない。そうすると、路上で通行人を呼び止めてやるということになるんだが……」

私がそう説明したとき、エーッという声があがった。

「そうなんだよねえ。そんなこ

とやれるもんかねえ」

当の提案者が最初から弱気で、ついこんな発言をしてしまうものだから、皆深刻な顔をして考え込んでしまった。前回の調査が多少インチキくさかったというのは、それぞれが自分の周辺だけから集めたからで、それがはたして無作為サンプルといえたかどうかには疑問が残った。要するに、やり易い方法を選んだわけだ。

「赤とんぼ」中津グループでは、毎月一度のビラ配りを駅前で行なっているが、どうやらビラを受け取ってもらっているというだけの実感からすれば、一人一人を呼び止めてアンケートに引き込む自信など誰にもないのだ。

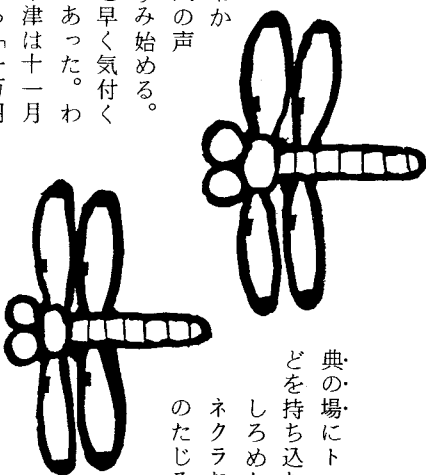
「もう、アンケート用紙百枚を東京のトマ喰い虫社に頼んでるものねえ……」

「さて……これはむつかしいぞ」

もう一人の中年男が腕組みをして呟けば、二人の女性も黙り込んでいる。こういうとき、若者のいないこのグループの腰の重さが露呈される。「赤とんぼ」が発足して九二年になるが、若い仲間をふやすことができなかった。

「赤とんぼ」は、毎年八月十五日に県内紙に「憲法九条を守ります」という意見広告を掲げることが目的とした、大分県下の反戦反核の護憲運動である。発起したのは女性達で、直接の引金は中曽根首相の不沈空母発言などにいたたまれぬような不安を感じてである。なかなか行動できぬ家庭の主婦が意志表明するにはどうしたらいいかを考える中から、意見広告という案がまとまった。

相談を受けたとき私は、意見広告自体の効果よりも、それに結集



典の場にトマホークアンケートなどを持ち込むことに、なにやらうしろめたさがある。いかにもネクラな感じだあと、内心のたじろぎが消えない。集合場所に来てみると、新しい助っ人などはいなくて、相変わらず三十代の女性三人と中年男二人の五人組で、なんとも心細い顔をしている。なにやら互いにむりに励まし合う感じで、グランドの産業祭のにぎわいの中に入っていく。

トマホークの映画会も二度催して、そのつどビラで知らせたのだが、ビラを見て会場にきた人はゼロ。結局、いつもの仲間内の学習の域を出ることができない。かくて、たかだかアンケート調査一つを前にしても、溜息をつく有様である。

「どうかしら……通行人を呼び止めるのはむりだし、中央公園だったらアンケート取れるんじゃないかしら。日曜や祭日は結構弁当持って来てるみたいだから……」

「そうだ、それはいいね。それならできるかもしれない。呼び止めなくていいんだから」

「待てよ——十一月一日から『学びの里』の祭典だよ。中央公園附近はいろいろ催し物があるはずだよ。これは、いけるね」

「よし、三日の午前十時から、中央公園附近でやろう」

ようやく、中年組の重い腰が上がる。アンケートの相手に配るトマホーク解説のビラも、中津用に刷り直すと決めた。

十一月三日、まことに好天である。朝から花火が上がっている。祭

する賛同者の輪を日常的に拡げていく運動こそが大切なのだからといって、月刊紙『赤とんぼ』の発行を提案し、いいだしっぺとして編集を引き受けた。

昨年は一二〇〇余名が広告に名を連ね、カンパ額は二三〇万円であった。県下全域を対象にしてこの数字は少いかと思えるが、一切の既成組織に頼らぬ草の根市民の呼びかけとしては、こんなものである。

だが、二年目の今夏は一九〇〇余の賛同者にもかかわらず、カンパ額は二〇七万円に減少して赤字となった（今夏は広告紙を二紙にふやしたので）。不沈空母発言への不安感ももう薄れかけているように、昨年の熱気が消えているというのが、集約者達の共通した感想であった。

中津市（人口六万六千）でも、

聞いたことありませんか？」とたたみ込むと、まずこちらのペースである。やり始めてみると、別にむつかしいことではない。御神楽の鬼が蜜柑を撒き始めて、答えながらヒョイと受け取った器用な人もいた。中には、「あ、松下センセですね」と問い返されて、照れることもあった。家族連れが多くて、一家の主に問いかけたら、父親が言葉につまんでいる間に、娘の方が「あら、トマホーク知ってる」とアンケートを横取りすることもあった。

結局、正午前には一二枚の用紙が尽きてしまった。こんなことならもっと用意しておくんだってと、やり終えたあとの安堵で笑い合った。八十二歳というおばあさんが、アンケートの途中で何か戦争の辛さを懐い出したらしく泣き出したということも報告された。

ネクラな五人組は、アンケート調査を終えると、さっさと祭典の場をあとにした。餅を貰う長い行列が出来ていた。

全国のみなさん！
トマホーク一万人
アンケートにご協力を

『有事研究』 第二次中間報告

防衛庁は「有事法制研究」の第二回目の中間報告（一回目は八一年四月）を十月十六日、衆院安保特別委で行なった。今回は他省庁所管法令（第二分類）の研究をまとめたもので、

// 今月の安保 //

有事に自衛隊が行動する際、
①部隊の移動
・輸送②土地の使用③構築物建造④電気通信⑤火薬類の取り扱い⑥衛生医療⑦戦死者の取り扱い⑧経理会計これらに関係する法令の問題点と改定のは非について検討している。

日米諮問委、自衛隊の海外派兵を要求

中曽根・レーガンによる日米首脳会談（八三年一月）で設置が決まった「日米諮問委員会」が、九

月十七日に報告書を提出した。この報告書は、外交・防衛問題で日本が西側の大国としての国際的責任を果たすために、国連平和維持活動への自衛隊派遣を求めている。これを受けて中曽根首相は、報告書の提言内容を「政府をあげてとりくむよう」指示し、外務省・防衛庁は、自衛隊の海外派兵を合法化する絶好のチャンスとばかり、自衛隊法改定の検討を始めた。

日米首脳会談で決定された日米諮問委の提言であるとして、米国防府の対日圧力が働き、それを利用して、自衛隊法改悪の動きが急進展する危険性がある。

日米合同演習に

トマホーク予定艦登場

自衛隊と米軍による日米合同演習が、九月から十月にかけて、陸海空各々で大々的に行なわれた。年一回行なう最大規模の海上自衛隊演習（九月十二日～二十日）に今回は、空母ミッドウェーと最新鋭駆逐艦「オルデンドーフ」（核トマホーク搭載予定艦）を含む米海軍艦艇十隻が参加。海上自衛隊も対潜哨戒機P3Cなど航空機一二五機のほか、航空自衛隊のF15

戦闘機や米海兵隊の航空機も加わり、日米海空・海兵合同演習として行なわれた。

「みちのく84」と銘打った日米陸上合同演習（九月十八日～十月一日）は、米本土から空輸された陸軍第七歩兵師団の約一、四〇〇人と陸上自衛隊第九師団約一、六〇〇人が参加し、王城寺原（宮城県）、岩手山両演習場で行なわれた。演習は、ソ連軍を模した赤部隊（日米合同で五〇〇人）を日米連合軍一、三〇〇人で撃破するという想定で、在比米空軍のF4戦闘機や航空自衛隊のF1戦闘機も参加し、空陸合同作戦として行なわれた。つづいて十月二十一日から十一月二日まで、陸上自衛隊と米海兵隊（沖縄駐留）との合同実動演習が行なわれた。米海兵隊は、核・非核両用の一五五ミリリゅう弾砲、陸自も一五五ミリ自走リゅう弾砲などを装備、日米各々七〇〇発を撃射した。

航空自衛隊総演習（九月十七日～十月十五日）に、今年も米空軍のF15とE3Aなどが参加し、海上自衛隊艦艇十二隻も加わり、海空合同の演習となった。

また、来年秋に陸海空三自衛隊

と米陸海空三軍による合同統合演習を行なう準備を進めていることを、渡部統幕議長が記者会見（八月二十九日）で発表している。

ソ連も長距離巡航ミサイル装備

ソ連国防省は十月十三日、ソ連が長距離巡航ミサイルを戦略爆撃機と潜水艦に配備し始めた、と発表した。これを報じたタス通信は、米国の長距離巡航ミサイルの大量配備に対抗するためと説明している。配備数などは不明だが、空中発射型（西側コードネームASX15）と海中発射型（同SSN-X21）は、ともにトマホークと同様の設計で、核弾頭一個を装着、亜音速で射程約三千キロとみられている。

韓国学生が、統幕議長訪韓に反対

自衛隊制服トップの渡部統幕議長が、李基白韓国合同参謀会議議長の招待で、九月二十九日に訪韓した。これに対し、ソウルの学生約千五百人が、日本軍国主義の韓国支配につながるとして反対、二十六日に西江大学構内で決起集会を開いた。

海外から

フィリピン

九月二十一日（金）、「米国に支えられたマルコス独裁体制に反対し、自由と正義と民主主義を求めるフィリピン人民の闘いを支援する国際デー」集会（CORDI民主回復のための組織連合主催）で発言するために、フィリピンに招かれた。

武装軍に囲まれた中での集会

当日は、マニラ周辺各地で幾つものデモが組織され、中央集会場となったボニファシオ広場で簡単な催しを行なったあと、民衆闘争の象徴的聖地と言われるメンディオラ橋に向けて自主デモを行なうとのことであった。どこまで行けるかは成行き次第で、正式の集会は、そこで行なわれると言う。どうも大変な状況の中でしゃべることになるらしい。集会なんぞふつとんでしまうかもしれないと感じた。

小雨についての感動的なデモであった。八列の隊列が延々と道路



9月21日、国際抗議デーの集会に参加した人々（メンディオラ橋の前で、マニラ）

を埋めつくした。人々のコールには、得も言われぬ節がついていて（網を引く漁師の唱を思い出した）、大衆の地から湧き上る合唱となる。耳から覚えるのが苦手な自分が、この時はくやしかった。

デモに参加した労働者は、その日はストライキをして参加していた。学生を中心とした文化チームが、沿道で人々の闘いを表現する寸劇を行なう。沿道から声援が上がり、銀行の二階からも紙吹雪が舞う。

メンディオラ橋の手前で首都警備隊がデモ隊を阻んだ。武装軍人の隊列が威嚇する中で集会が始ま

った。

集会は、歌あり、アジテーションあり、軍への呼びかけあり、少数民族の踊りありで、その間に、日本の闘争からのアピールを伝えることができた。集会は、延々と翌朝まで十五時間続いたが、早朝、軍は放水と催涙弾でデモ隊を解散させた。あとから、負傷者、行方不明者が多数出たと伝え聞いた。

運転開始寸前のパターン原発

NFPC（非核フィリピン連合）の人たちと、フィリピンの反核運動のこと、反トマホーク運動のことについて意見交換をした。

もともとNFPCは消費者運動を母体として出発し、原発を中心課題としつつ核兵器の問題へと運動を広げてきた。現在は、パターン半島の原発が緊急課題になっている。試運転寸前であるが、安全問題のさまざまな現実、建設費をめぐるスキャンダルが明るみに出た。そして、私の滞在中に、「安全性についての公聴会を開くまでは、燃料の装填をしてはならない」という最高裁の決定が出た。ちなみにこの原発には、日本の銀行が多額の融資をしている。

原発と基地をつなぐキー「核」

原発の近くに米海軍の海外での最大基地スービックがある。NFPCの事務局長の話によると、パターン原発に反対する運動は、それ自身の目的と同時に、スービックから米軍を追い出す運動の第一段階であるとのことであった。そのとき原発と基地をつなぐキーワードが「核」であり、核の非道さについてどれだけ広範な住民感情を組織できるかが重要だと言っていた。しかし、基地周辺住民は、基地から利益を得ており、いきなり基地問題から説くのは難しいとも言っていた。

反トマホーク運動は、そのような形で反基地運動に入っていく時の第一課題として考えているとのことであった。

反核の共同行動を

後日NFPCより、反トマホーク、反核運動についての協力申し入れがあった。まず出来ることから具体的な民衆レベルでの協力をという趣旨で、①ホットラインを含む情報の交換②できうる限り共同行動をとってゆこう、との提案がなされた。（梅林宏道）

以下は、オーストラリアで反基地・平和運動を続けているピーター・ジョーンズさんから届いたオーストラリアとニュージーランドの状況と運動を紹介する手紙です。

オーストラリア

オーストラリアの平和運動にあって、一九八四年はかつてない大規模な行動で始まった。四月十五日に行なわれたデモには、全国各地で二十五万人の人が参加した。しかし労働党政権は、残念ながら前政権と同じように保守的なものになり果てており、平和運動の盛り上がり、レーガン支持の立場をとる労働党政権という混乱は、政治の大きな再編成をひきおこしている。七月に首都キャンベラで開かれた労働党大会では、左派の出した動議は否決されてしまった。そのため、ウラン採掘の禁止、米軍基地の閉鎖、米艦船入港阻止、の立場を守るのはオーストラリア民主党だけとなった。

オーストラリアの革新勢力は、現在さまざまな方向に動いている。

新しい思想を探るための社会主義フォーラムに専念するもの、新しい政党作りや核軍縮党に力を入れているものもある。この党は十二月一日の総選挙に出ようとしている。ただし労働党に勝つ見込みはなさそうだ。

六月に、ニュージーランドのウェリントンで開かれた「アンザスを越えて」(アンザスANZUSとは米、豪、ニュージーランドの軍事同盟)会議には、オーストラリアから五十七名の代表が参加した。こうした会議をオーストラリア、ニュージーランド両国から大挙参加して開くというのは初めてのことである。またヒロシマ・デーには、多数の平和団体がさまざまな行動を行なっている。南オーストラリアでは、八月からロクスビーダウンズウラン・銅鉱山開発に反対する連続行動が始まった。この鉱山は、もし開発が始まれば、世界最大のウラン鉱山となるものである。

十二月一日から十四日まで「生存のための女性たち」というグル

ープが、南オーストラリアのコックバーン・サウンドの海軍基地の外で「サウンド・ピース・キャンプ」を行なうことになっている。この軍港には、オーストラリアに寄港する米艦船の七〇％が入ってくる。米艦船の寄港時、プロジェクト・アイスバークというグループが、今年二度直接行動として抗議のために船に乗りこみ、舷側に横断幕をたらしめた。

十二月の女性たちのピース・キャンプに向けて、支援のメッセージを送って下さい。

ACPR, P.O. BOX A234 Sydney South NSW 2000
Nuclear Free Pacific movement

ニュージーランド

今年七月、ニュージーランドの有権者は、一九七五年以来初めて米核艦船寄港禁止を政策とする労働党政権を誕生させた。オーストラリアと米国の政府は、ロンギ新首相に政策変更をせまっている。ぜひロンギ首相に支持のメッセージを送ってほしい。

労働党は政府よりも積極的で、米軍基地をすべて閉鎖するよう要求している。しかし、政府はこの決議を無視した。オーストラリア、

ニュージーランド両国で、アンザス条約への加盟継続ではなく、非同盟中立の外交政策をとることへの支持が高まっている。そうした動きはとくにニュージーランドのほうが強い。

「ニュージーランド平和運動」は、「アンザスを越えて」会議を主催したほか、ノース・アイランドのタンギモアナに、米軍の新しい軍事施設(西太平洋におけるNOSISという通信観測システムの一部)があることがわかり、抗議を集中させている。

十月には、オーストラリア代表団が、米艦船入港阻止政策への支持を表明するため、ニュージーランドを訪れた。反核太平洋運動への支持も高まっていて、とくに先住民マオリの人々は、オークランドに反核独立太平洋運動の独自の支部を作り、強い関心を示している。

クライストチャーチのキリスト教のグループは、空港に隣接するヘーウッド米軍基地の非軍事化キャンペーンを始めた。この基地は、南極圏における米軍作戦・ディープフリーズ作戦の一部である。(ピーター・ジョーンズ)

ハワイ

太平洋の非核独立運動を中心となつてすすめてきたハワイの太平洋問題情報センター(PCRC)のネルソン・フォスターさんからトマホークの配備に反対するアジア太平洋規模の共同行動の提案がさる七月十四・十五日、名古屋で開催された第三回全国会議でされました。以下はその提案を要約したものです。

巡航ミサイル・トマホークに反対する太平洋運動の提案

A 目的

1. 核トマホークの配備を阻止すること、もしくは最小限に削減すること。つまり、核トマホークの予算を止め、大量配備を阻止するための時間は残されている。
2. 非核トマホークの配備を阻止すること。高精度の対地攻撃用に設計された通常弾頭型トマホークは、まだ配備が承認されていない。したがって、アメリカの兵器庫に入ることを、そもそも阻止するために、まだ間に合う。(海軍は、第三世界用にこの型をぜひ使いたいと思っていることに注意)

3. 太平洋へのトマホーク配備を阻止すること。最終的にどの型が何基配備されようとも、それが太平洋で用いられるか否かは、港に入れるかどうかに依存している。もし、私たちの運動がトマホーク能力艦の入港を許さないならば、艦船の動きを制約し、アメリカがそれを除去するような強い間接的圧力を加えるだろう。
4. 非核太平洋独立運動を前進させる。反トマホーク運動は、ANZUSや日米安保条約を再吟味させるだろう。そして、太平洋の軍事化と植民地化に対する私たちの強い関心を伝えるのに役立つだろう。
5. 軍備競争についての教育のための良い機会をつくり出すこと。トマホークは核兵器と通常兵器の区別がほとんどなくなっていることを示す例である。またトマホークは、公然と限定核戦争用兵器、あるいは、全面的撃ち合いのあとの掃討用兵器と言われている。この運動は、このような最近の軍備競争の実態について討論する機会を私たちに与えてくれる。

B 行動

1. トマホーク配備に関する情報

の流れを促進するデータ交換を確立する。

2. トマホーク、その配備、支援システム、その使用と危険性、起こりつつある反対運動、人々に何ができるか、などについての太平洋規模の教育プログラムを実行する。
3. 「トマホーク来るな」を統一テーマにして、太平洋規模の抗議デーをもつ。抗議デーの日どりは一九八五年三月一日から六月三十日の間とする。
4. アメリカの太平洋の海軍基地での港の監視活動を組織する。
5. 入港が予測されたり、監視などによって明らかにされたとき、トマホーク入港への抗議行動にとりくむこと。

C 戦略

私たちのトマホークを止める戦略は次の二つに存する。(一)太平洋の国々における行動を通してアメリカ政府に間接的な圧力を加える。(二)アメリカ国内の同志たちに米国内でのトマホーク反対運動を訴える。この二つの戦略のどちらの要素も必要であり、同時に追求されなければならない。しかし、私は、私たちの努力は

間接的な圧力の行使に集中すべきだと考える。もし私たちが太平洋で充分に運動をやれば……つまり、私たちがトマホークを見えるものにし、危険性を宣伝し、反対運動の重要性を示すことに成功するならば……アメリカの運動が支持に立ち上ると確信することができる。核、非核が区別できないという敵に脅威を与える特性が、私たちの組織化の重要な手段になる。米海軍も政府も一つの艦船が核トマホークを積んでいるかどうかを明らかにしない以上、私たちは、トマホーク発射装置をもっているすべての艦船の入港を禁止する強力な理由をもつことになる。

最近のアオテアロア(ニュージーランド)の労働党の勝利に対する反応で見られるように、レーガン政権は、最大限の寄港権を維持することに固執している。したがって、もし反トマホーク運動がロンギ首相に公約を守らせる一助となったり、太平洋の他の場所で大な挑戦をつくり出したりすれば、運動は立派な結果を生むことになるだろう。

(ネルソン・フォスター)

許すなトマホーク意見広告の会より

トマホークをとめる方法のひとつとして、私たちは全国紙への意見広告運動を提起しました。現在までの約半年で三六〇万円あまりを集め、さらに大きなスペースを新聞紙面に確保すべく頑張っています。デモや集会に來れない人も一口二千円で全国へ反トマホークの意思表示を！

郵便振替・東京二一三五二四二
意見広告の会

新宿に トマ喰い虫バンド 発生！

11月11日反核ライブ・トマホークの料理法の熱いステージにトマ喰い虫バンド登場！！



■レーガンも中曽根も再選された。すぐにニカラグアで戦争が始まりそうだ。中曽根は何をするだろう。しばらく要注意が続く。

■逗子市で富野暉一郎氏が市長になった。池子弾薬庫跡地に米海軍用住宅の建設を許すかどうかを問う選挙であり、建設反対派がついに勝利をおさめたのである。日米軍事同盟のエスカレーションに、一つのくさびが打ち込まれた。

「トマ喰い虫」の 編集に参加しま せんか

「トマ喰い虫」改装1号をお届けします。改装1号には、私たちの尽きない希望と闘志がこめられています。トマホークの配備をくいとめるという仕事が包みこんでいる、あるいは包みこまれている広がり、まるごと表現するような紙面をつくりたい。紙面にあふれ出る活気が、たたかいをひとまわり大きくし、強め、人々のつながりを生み出すような役割を果たしたい。

この号はデモンストレーション号です。これを見て編集に参加してみようという人々を得て、さらにいいものになりたいと思います。参加を！

『トマ喰い虫』改装1号(通刊6号)

1984年11月22日発行 頒価200円

編集発行 トマ喰い虫社

〒112 東京都文京区春日

1-8-6 中森ビル2階

電話 03・813・1953

郵便振替 東京6-136148

(口座名 トマホークの配備
を許すな！首都圏運動)

トマ喰い虫とは、横須賀の久里浜中学生が、考え出したトマホークをたべてしまう生き物です。反トマホーク運動のマスコット。

この号の編集に参加した人

井上 澄夫

今井 明

大久保青志

河辺 岸三

佐藤 正兵

相馬 正男

高弊 真公

山鹿 順子

井上 年弘

梅林 宏道

大橋 成子

斉藤美智子

鈴木 良

高木仁三郎

新倉 裕史

吉川 勇一

